埼玉県ＩＣＴ活用　実践事例

ＩＣＴで　校 務　をＤＸ！

学年	教職員	教科など	校務

早く・簡単に・正確に！Google formsでアンケート集計！

使用するアプリケーション等
・Google forms
・Google スプレッドシート

DXする題材　職員会議・アンケート・教材研究

ＤＸのねらい　アンケート業務をICT化することで、業務の削減とより充実した教育への接続ができるようにする。

ＩＣＴを活用することで　できること

・Google forms（アンケート機能）を活用することで、アンケートの集計が円滑になる。
・ブラウザ上でアンケートをとることが可能となり、ＵＲＬ及びＱＲコードを用いて即時にアンケートをとることが可能となる。
・一斉メール等を用いて遠隔での調査ができるため、教員及び保護者の負担軽減につながる。
・収集したアンケートは即座にデータをグラフにし、見える化できるため、より細やかな分析が可能となる。
・効果的なPDCAサイクルが見込まれ、ひいては子どもたちの資質能力の向上にも結びついてくる。

ＤＸ前（ＩＣＴを使っていなかった頃は・・・）

① アンケート項目をワード（エクセル）で作成する。

② アンケートを印刷（家庭数分）して配布する。

③ アンケートを回収する。（各担任）

④ 各項目に分けて,集計する。

⑤ 集計結果を集計用ファイルに入力する。

⑥ 集計された項目について、必要があれば、グラフにして分析する。

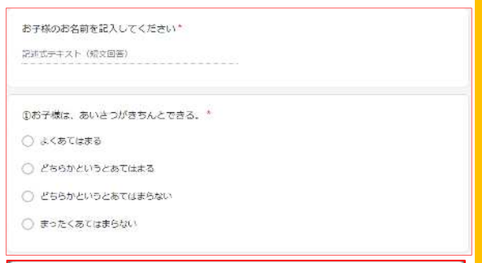
⑦ 分析結果を周知するために紙面で配布。

⑧ 協議が必要な項目については、各会議、各部会等で話し合う。

DX!

ＤＸ後

① アンケートを作成する。
- Google Forms上でプルダウン等を選択しながら、アンケートを作成する。（文章での回答も選択可能）

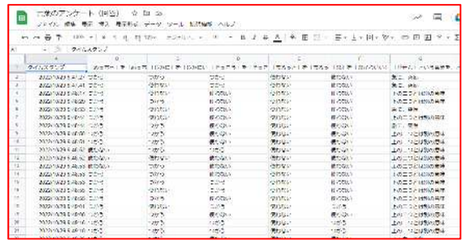


② アンケートを配布する。
- 作成したアンケートのURLを対象者に送信する。
- URLをQRコードに変換することで、カメラでの読み取りも可能。

URLで配信することで、遠隔地にいても回答することができる。
URLをQRコードに変換すると、その場で読み取り、一斉回答も可能になる。

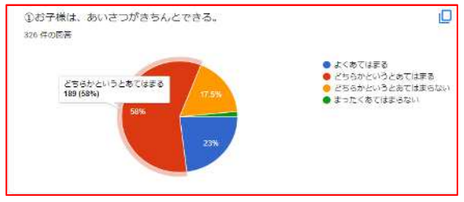
③ アンケート結果をスプレッドシートに出力する。
- スプレッドシートにして、フィルターをかけて提出者の確認、項目ごとのグラフ表示をする。

- Google Formsでの回答結果は、グラフをスクリーンショットしてエクセル、ワード等に張り付けておく。（共有する際に容易に共有が可能になる。）



④ アンケート結果、グラフ等を見ながら内容分析をする。
- 課題がある場合、課題の原因を調査、分析。
- 解決に向けたアイデアの提示をする。
- 解決策の絞り込みをする。
- 解決策の実行をする。

※ 特に原因の調査・分析において、即時に、そして複数人で同時に見ることができるため、多様な視点での分析が容易となる。



授業者から（成果・課題・留意点）

・これまで紙ベースであったものが、ICT化することにより情報を整理する時間が減り、本来確保すべき分析の時間を多く確保することができるようになった。
・問題の特定化が容易となり、教員の課題解決に向けた話し合いが明確化された。
・実際の集計が数値化されるため、年度ごとの比較もしやすくなった。
・回答できない人がいる場合、教員がトラブルに対応できるICTスキルが必要となる。